

# 大型紙袋から1袋まで、 顧客のニーズに応える

- 納期相談
- コスト相談
- オンリー技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



包装紙の裁断加工

**業務内容**  
あらゆる製品を保護する  
紙袋・包装紙の製造

「三和紙工業」は、寝具や建築資材、車のバンパーなどを運送する際に、汚れや傷が付くのを防ぐ紙袋・包装紙を製作している。昭和28年に大阪市内で創業し、昭和43年に本社を現住所の大阪府高槻市に移した。使用される温度や湿度、破れにくさ、用途など各社のニーズに応じて、クラフト紙やクロスラミネート紙など最適な用紙を使い分けながら裁断し、現在は紙袋を月に4万袋、包装紙を面積換算で月100万㎡以上生産している。

**強み**  
特注品の加工で顧客の要望に柔軟に対応

紙袋や包装紙の製作で、規格製品はもちろん特注品も積極的に受注し、顧客の要望に柔軟に対応されるのが最大の強み。業界では機械による製袋が増え、袋寸法の規格化が進む。同社では機械で対応できない製品を中心に手がけている。

例えば、自動車が1台収まる大型紙袋（幅5,100mm×奥行き1,880mm×高さ1,450mm）や、製作コストの関係で、他社が嫌がる1袋からの注文にも対応する。「これらができるのも、創業から60年以上にわたって技術ノウハウが社内蓄積されているおかげ」と下園大介社長は胸を張る。

**設備効率化**  
裁断機を導入して生産能力向上へ

袋や包装紙の製作は、ロール紙といわれる

コイル状の用紙を裁断して、それぞれを作業で加工していく。これまでの工場設備では、注文が多い際にはロール紙の裁断が間に合わず、裁断した紙から袋に折り曲げていく作業に支障が出ていた。

そこで、平成27年に中小企業庁の「ものづくり補助金」を活用して最新の裁断機を導入した。これにより切断能力は約1.5倍に高めた。さらにコンピュータ制御の裁断機を導入し、加工する紙を±2mm以内の精度で切断し、取引先から要求される厳しい品質に込めている。

**今後の展望**  
認知度とブランド力の向上

同社は商社経由の注文が多く、これまで積極的に展示会に出展する機会はあまりなかった。ただ、今後は紙袋や包装紙を他分野にも応用できないかと、国内の展示会への出展も検討している。「展示会で各業界関係者の話を直接聞きたい」と下園社長は話す。

さらに5年後までに米国の展示会への出展も検討するほか、将来アジアにも出展し、需要を探る考えも示す。これらにより、国内外で会社の認知度やブランド力を高め、取引先を増やし、現在の売上高を平成33年までに20%増の1億円に伸ばす計画だ。



中型サイズの紙袋製品



工場内での作業風景

## 当社の歴史



物資不足の終戦直後に、創業者の下園金次郎が新聞紙から紙袋を作って販売するのが始まりで、創業から63年ずっと紙袋と包装紙の事業を続けてきました。製品は全てオーダーメイドで、機械ができない大型紙袋の製作や小ロット生産ができます。これからも取引先の求める製品づくりを続けていきます。

代表取締役 **下園 大介さん**

<http://www.sanwakami.co.jp/>

### 主な事業内容

超大形紙袋の製造（多機能紙袋）、多機能紙の断裁加工

### 主な取引先(納入先)

製紙、段ボールメーカー、包装紙商社、繊維メーカー、自動車メーカー、建築資材商社およびメーカー、その他

- 住所 〒569-0031 高槻市 大冠町2-1-6
- TEL 072-671-2181
- FAX 072-661-4205
- 創業 昭和28年
- 設立 昭和39年11月
- 資本金 1,000万円
- 従業員 25名

大阪28